



エリアワンセグによる 聴覚障害者向けの情報保障サービス

2011/2/4

国立大学法人 筑波技術大学





1. 筑波技術大学の紹介

■ 国立大学法人筑波技術大学

聴覚および視覚障害者のために創られた国立大学法人

■ 所在地

茨城県つくば市

■ 学部構成

「産業技術学部」・・・聴覚聴覚障害学生が主にものづくりを学ぶ
「保健科学部」・・・視覚障害学生が主に健康づくりを学ぶ

■ 大学の特徴

- ・世界の聴覚および視覚障害者の高等教育をリードする大学として、両障害者への支援手法や機器の研究・開発を行なっている
- ・聴覚障害分野の一つとして、学内外で遠隔手話通訳、PC要約筆記の実験と実践といった「情報保障」の研究を重ねてきている



2. 情報保障とは

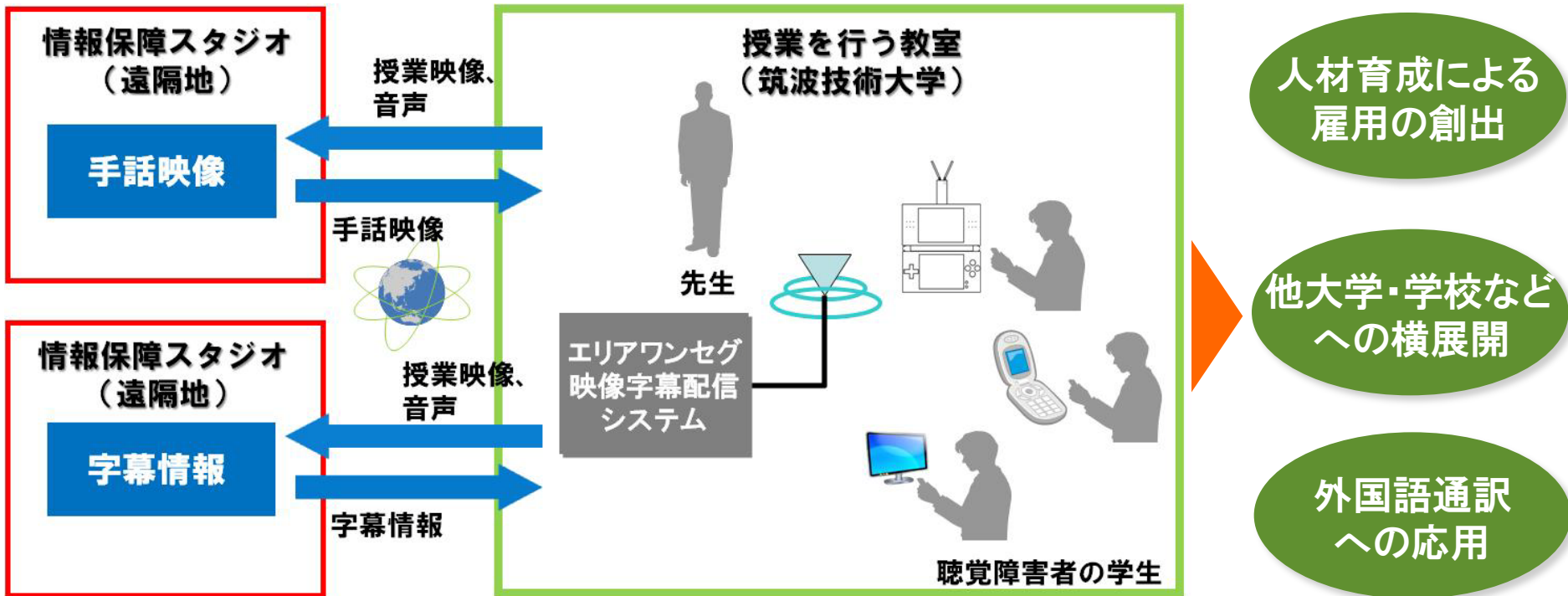
■ 情報保障の説明

聴覚障害学生に対して、手話通訳や文字通訳などの手段を用いて授業を聞く権利、授業に参加する権利を保障する取り組みのこと。手話を用いて行う方法を「手話通訳」、筆記による方法のうち講師の話を手書きでノート等に記載していく手段を「ノートテイク」、同様の手法をパソコンで行う手段を「パソコンノートテイク」または「文字通訳」と言う。



3. サービスイメージ

ホワイトスペースを活用し、手話映像と文字通訳を配信！
授業や講義内容の理解促進に有効な新しい情報保障サービス！



通信ネットワークを利用し、遠隔地の専門スタッフを活用



4. 2010年度の授業における先行実験

2010年度の学外講師の授業において、手話・文字通訳を配信
学生より「授業の理解促進になった」、「継続してほしい」の声多数あり

市販のワンセグ視聴端末をそのまま使用

ワンセグ
映像部分に
手話映像を配信

情報保障スタジオ
のスタッフ
(遠隔地)

ワンセグ
字幕部分に
文字通訳を配信

スクロールして、
履歴を閲覧可能



実験協力：株式会社 日立ソリューションズ



5. サービス実現により期待される効果

学生の授業理解促進

先行実験のアンケート結果より、授業の理解促進に有効である。その結果、聴覚障害者の人材育成が助長され、障害者雇用の活性化にもつながると考える。

新しい情報保障サービスとしての全国的な普及

他の教育機関やセミナー・展示会場などでの新しい情報保障の形となる可能性がある。また、筑波技術大学は、全国17の大学・機関から構成する「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク」に事務局として参画しており、全国横展開を促進できると考える。

外国語通訳への応用

新しい外国語通訳の形としても応用できると考える。



6. 検討すべき課題

特区での実証を通じて制度化に資するサービス要件を検討する

情報保障に関するサービス要件の検討内容：

■ サービス利用シーン、ニーズ
教育機関や短期間の講演・セミナーなどでのホワイトスペース利用。

■ 無線局利用方法
(一時設置、電波共用、電波発射手続き、置局管理)

■ 電波の有効活用技術(バラセグ, 半セグなどのマルチチャンネル)
ニーズおよび課題を整理し、有効な解決方策を検証する。



END

**エリアワンセグによる
聴覚障害者向けの情報保障サービス**